

○職員の皆さんの目線で、次の重要ポイントを☑チェックしましょう。

- 1 吐物や糞便には、ノロウイルス等が存在し感染源になる可能性があることを、常に意識している。※少量のウイルスで感染するため、感染力が強い。
 - 2 ノロウイルスの特性として、消毒用アルコールが効きにくいことを理解している。
 - 3 こまめに手洗いを行っている。（特に、オムツ交換、吐物や糞便の処理後など）
 - 4 施設における「嘔吐物・排泄物の処理マニュアル」を、各所で直ちに確認できる。
 - 5 速やかに嘔吐物・排泄物対応が行えるよう、施設で決められた場所に、「処理セット」の備付がある。（使用期限や在庫数量もチェックしましょう。）
 - ・処理セット（例） 次亜塩素酸ナトリウム、ペーパータオル等、ビニール袋（液漏れしない密封できるもの）
必要な防護具（使い捨て手袋、マスク、使い捨てエプロンや長袖ガウン、シューズカバー、必要に応じてゴーグル等）など
 - 6 消毒剤は、次亜塩素酸ナトリウム含有の製剤を使用し、マニュアルに基づき、希釈濃度を調整している。（消毒剤は、決められた場所で適切に管理している。また、飲食容器への移し替えなど、安全面から危険な行為は行わない。使用上の注意を守りましょう。）
 - 7 経管栄養や胃ろうのボトル、チューブ等の消毒を行う際は、次亜塩素酸ナトリウム含有の製剤を用い、適切な濃度で浸漬等させるなど、確実に消毒を行うとともに、消毒後は衛生的な取扱いを徹底している。
 - 8 嘔吐物・排泄物の処理は、マニュアルに基づき、確実に実施している。
 - 9 ウイルスを含む塵埃が乾燥し空中を漂うことによる感染を防ぐため、十分に換気を行っている。（その他の感染症対策も踏まえ、定期的に換気を実施。）
 - 10 汚物等が付着したリネンやオムツ交換後の感染性廃棄物等は、その他の箇所や清潔な衛生物品等を汚染しないよう、適切に保管している。（清潔・不潔の認識と区別を）
 - 11 個人防護具（PPE）の着脱は、決められた場所、手順で、確実にやっている。
 - 12 適宜、必要な環境消毒を行っている。（特に、便器やその周辺、手指が触れる場所（レバー、ドアノブ、手すり等）などを確実に。）
 - 13 職員や入居者等は、日頃から体調管理（確認）を行い、体調不良（吐き気、嘔吐、下痢、発熱など）の有無を把握することができる。※迅速な初動対応が大切。
 - 14 職員等で体調不良や症状のある場合は、施設内への持ち込みを防ぐため、無理せず自宅で療養あるいは受診ができる体制となっている。
※施設内の緊急連絡表と就業規定を確認しましょう。
 - 15 入所者等の感染が疑われる場合は、施設内の規定に従い、必ず看護職員や責任者に報告し、利用者家族や関係者の理解と協力を得たうえで、個室や同室対応など、感染拡大防止に努めている。
 - 16 有症者について、嘔吐や下痢等の症状が治まってからも、最大4週間程度は排便内にウイルスが存在することがあると知っている。（オムツ交換の手順など確実に）
 - 17 面会をはじめ、施設内の活動は、地域の感染拡大状況や施設内での感染状況を踏まえ、総合的に判断している。
 - 18 協力医療機関や嘱託医、かかりつけ医等と連携を強化し、患者へ適切な医療が提供できる体制が整っている。※誤嚥による吸引対応等も想定しましょう。
 - ・医療機関① _____ (医師) _____ 緊急連絡先 _____
 - ・医療機関② _____ (医師) _____ 緊急連絡先 _____
 - ・医療機関③ _____ (医師) _____ 緊急連絡先 _____
- ※上記に協力医療機関や嘱託医、かかりつけ医等を記載し、連絡ができるように。
- 〈その他連絡先（協力医等に連絡が取れず判断に迷う場合など）〉
- ・えひめ救急電話相談#7119（救急車を呼んだ方がいいか、受診した方がいいかなど迷う場合） 連絡先 #7119
 - ・愛媛県子ども医療電話相談#8000（子どもの身体の具合が悪くなった場合等） 連絡先 #8000
- ※緊急時は、ためらわず119番通報を。